

第3回 四万十町立図書館十和分館整備検討委員会 会議録

1. 日 時：令和6年9月25日（水）19:00～21:00
2. 場 所：四万十町役場十和地域振興局2階ホール
3. 参加者

出席者	委員	四万十町立小中学校長	山本 千代
		四万十町立小中学校 PTA 連絡協議会 十和地区会員	久保 卓也
			山本 卓
		四万十町立図書館協議会委員	刈谷 明子
		十和まちづくり推進協議会委員	栗原 あゆみ
		四万十町社会教育委員	松下 正明
		公募による者	田頭 誠志
			酒井 紀子
			平野 彩
役場	生涯学習課	課長	今西 浩一
	十和地域振興局	局長	富田 努
	(事務局) 十和町民生活課	課長	畦地 永生
		副課長	林 誠
		主査	吉良 正史
		主任	松下 理恵
欠席者	委員	四万十町立小中学校 PTA 連絡協議会 十和地区会員	芝 伸介

4. 日程（1）開 会
 - （2）十和町民生活課長挨拶
 - （3）議事①望ましい設置場所について（その理由）
 - ②望ましい規模感について
 - （4）その他
 - （5）閉会
5. 配布資料（1）次第
 - （2）第2回四万十町立図書館十和分館整備検討委員会 意見まとめ
 - （3）四万十町立図書館十和分館整備検討委員会設置要綱（再確認用）

6. 議事

（この要旨については、ご意見や回答の趣旨を損なわない範囲で、わかりやすい表現に修正等を行い作成しています。）

（事務局）定刻となりましたので、ただいまより、第3回四万十町立図書館十和分館整備検討委員会を開催いたします。本日の欠席者は芝委員とお聞きしています。まだ1名来られておりませんが、委員定数10名のうち、本日まで出席いただいている委員さんが8名で、半数以上出席をいただいていることから、本会は成立しています。開催にあたりまして、十和町民生活課長よりご挨拶申し上げます。

（畦地十和町民生活課長）本日は第3回の検討委員会ということで、前回の検討委員会では、望ましい設置場所や規模感について協議したところです。特に場所については意見の中では、子どもたちが自分の足で行けるところや、学校図書館と公共図書館の合築、国道沿いなど本が自然に目に入るような場所がよいというような意見が出されていたかと思います。今回は同じテーマですが、場所や規模感について、前回よりもより具体的に議論を深めていただきたいと思います。また、前回会の最後のほうに局長のほうから話が出ておりましたけども、現在学校教育課のほうで十川小中の校舎の大規模改修または新築のプランを練っているところですけど、それも1つの選択肢でありますけども、もしこの検討委員会で学校に分館を設置したいというような内容であれば、そういった意見も改修や改築のプランに反映していかなければならないと思います。これが遅くなりますと、意見の反映ができず、1つの選択肢がなくなることにもなりますので、状況によってはもう少しスピード感を持って対応をしていかなければならないと思っていますので、よろしくお願いします。皆さんの分館整備に向けて検討された意見を、よりよい分館となるよう繋げて行きたいと思っていますので、よろしくお願いします。

（田頭委員長）先ほど副局長より、十川小中の話が出ましたが、それ以上に四万十町では、教育振興基本計画の第2期がいま検討中でして、パブコメも終わりました、策定がいつでしたっけ？

（今西生涯学習課長）最近策定されまして、HPにも公開されている。

（田頭委員長）タイミングといえばそこかと思います。十川小中の改築以上に、四万十町の教育の根幹となる法の教育振興基本計画が今策定されたばかりである。ここから教育の各分野がそれぞれ具体的な施策が打ち出されて進んでいく。なので、今このタイミングで、社会教育の文化的な施設の1つである町立図書館の十和分館について、この会でより具体的な意見が出れば、より教育委員会も反映させやすい。なので色々とはあると思うんですが、より具体的に打ち出しておいて、教育委員会に十和のほうではこんな話になったということを伝えて、それを拾ってもらって、教育委員会が考えを決めて、我々にこういうことはどうだとか投げかけがあれば、より十和の地域の代表の方の意見を反映した施設になりやすいのかなと思います。タイミングとしては今、ある一定の具体をまずは打ち出すということも必要かなと考えます。それでは前回の参考資料なんかも見ながら意見を出していただけたらと思いますが、やはりどうしても具体的にしていくためには、設置場所というのをまず色んな意見を出していただいて、こんな提案ができるよというところを協議したいと思います。

（酒井副委員長）日ごろから十川小中の改築や新築の話が出ていますけども、その場合時期とかを具体的に
出してもらいたい。前回の会ではわりと中身・規模感よりも内容についてを語るとしたときに、より駐車場が大きくと
か、場所が大きくのような意見を反映するとしたら、もうちょっと具体的に昭和小とかそういうことになるんじゃないか
という案も頭をよぎった方もいたと思う。その場所について実際土砂災害指定の土地とかそういう兼ね合いがある
のかなど、前回出た場所について課題とか具体的な情報があるのであれば今出していただきたい。

（田頭委員長）教育委員会としては、十川小中の改築等についてはノープラン。スケジュールは一応立っている
けれども、どういう風に進んでいくか、どういう具体があるのかというのはノープラン。改修になるのか改築になるのかは
ノープラン。

（酒井副委員長）ノープランだけど、建つ見込みもノープラン？

（田頭委員長）ノープランです。

（酒井副委員長）局長が前回おっしゃっていた、もしも学校と一緒に整備というのであれば早めに言ってほしいと
いうのは？

（富田十和地域振興局）1 回目の会に自分は出ていなかったが、その時に具体的にどのような改修・改築をす
るかっていうのは示されていないけど、どういうスケジュール感で協議を進めていくかっていう資料は示したのではない
か。

（事務局）前回も学校整備のスケジュール感は示している。

（富田十和地域振興局）学校を大規模改修するのか、新築するのかそういった基本構想をつくるというスケジ
ュールが今年から来年にかけて。

（田頭委員長）スケジュールはあるけれども、どうするのかというのはノープランということ。

（富田十和地域振興局）来年から再来年にかけて基本設計で動いていくということであれば、つまり今年中には
基本構想が一定見える。大規模改修にするのか、合築にするのかそのような大筋は今年中にはみせていくよう
になる。

（田頭委員長）スケジュールそのものも、決定しているものではないし、教育基本振興計画そのものが半年以上
遅れたので、はっきりとは言えないと思う。本来はこの4月からスタートしているものが、大きくずれたので、そのスケ
ジュールもおそらくずれるだろうと思います。四万十町は最上位法規として総合振興計画があって、その次に教育

委員会の中で教育振興基本計画が最上位にある。その策定が半年遅れたので、多少のスケジュールの遅れというのは出てくるんじゃないかと思います。図書館の運営についても教育振興基本計画の中の 1 つなので。

（富田十和地域振興局） 今日、学校教育課の担当者に聞いた話をします。来年 2 月くらいには大まかな方向性を示したいという話はしていました。

（田頭委員長） けど教育委員会の話なので、教育委員会がどう進むかは、教育委員会が決めることなのでまずここでは、町立図書館の十和分館をどこに建てたいか、どうしたいのかを具体的に話すことで、その周りに駐車場の場所がないとか、そんなことは後で考えるべき。最初から駐車場をメインでとか考えていたら話が進まないの、まずここでそれぞれの委員が「こういう図書館を作りたい」と、ただ進めていく中では、「そこはやはり無理だな」「少し割愛しないといけない」というところも出てくるだろうとは思いますが。まずは各委員が、周りの状況等は気にせず個人の意見を出していただいたらいいんじゃないかと思います。教育委員会の考えも無視をして。この場で考えることはできないし、教育委員会に対してこの場で何らかの意見を言うということではできないので。

（松下委員） 付帯する条件は色々あるが、委員長が言われたように、ここではとにかく社会教育の立場から、図書館はこういうのがいいという話に絞ってほしい。学校教育課とか教育委員会のことを考えていたら何もできなくなる。偏りがあるかもしれませんが、私の意見を言わせていただきます。まず、平成 31 年 3 月に市街地再生基本構想が出ていますよね。十川地域の学校の周辺を教育・保育推進ゾーンとしてやっていくということは、出されている。これは大前提として生きているんですかね？ 第 1 回の検討委員会の資料でも出されている。

（富田十和地域振興局） 確か 10 年間だったので生きているかと思います。

（松下委員） それを考えると、筋として大前提として、十川地域は教育・保育推進ゾーンで、昭和地域は医療・福祉や観光ゾーンでまちづくりを推進しているという中の 1 つのハコモノ。そう考えると、この文化施設のジャンルにある社会教育の図書館を昭和につくるというのはおかしい。これ（市街地再生基本構想）をひっくり返すことになる。これはなんで作ったのか、ちゃぶ台返しになる。これは、まちづくりの基本構想なんだから、これを考えると、設置場所は狭い、広いは度外視して、理屈・筋で言うとやっぱり十川。全国的な例を言わせてもらっていいですか？ 同級生が香川県の満濃中学校で再雇用で働いています。琴平があるところです。もちろん例に漏れず少子化で子どもがどんどん減ってきている。まんのう中学校、琴南中学校、仲南中学校の 3 校が近くにあったが、そのうちの琴南中学校と仲南中学校が子供が減って閉校しました。それを機に、校区を再編して、先々のことを考えて、満濃中学校を全部取り壊して新しく立て直している。まっさらで耐震化の済んだものになっている。田舎なので土地は多いと思いますし、田園地帯なので平米に問題はないと思います。学校と言うと都会では 4、5 階建てになるんですけども、2 階建てでとんとと広く平屋のところもある。そこに 2 校閉校した分で教育費用がある程度浮いてくるので、そのお金も含めて、まんのう町立の図書館と体育館とトレーニングセンターと剣道場の 4 つの施設を真横に作り、夜 9 時までやっている。学校とは大体わずかの間隔で出来ていて、2 階の連絡通路で子どもたちは体育の授業は体育館へ、図書室・調べ物は図書館へ行ったり来たりしています。もちろんセキュリティの配置は町

がやっている。図書の入替も町の司書がいて、清掃も行われている。エアコンも完備されていて、エアコンのついた体育館で体育の授業をやっている。子どもが使う場合は無料。学校教育なので。社会体育で大人が使う場合は 1 時間いくらという形でお金をもらってやっている。つまり社会教育と学校教育が完全にリンクした形ですね。もちろん建設にお金はかかっていますが、10 年 20 年という先を考えると、コストは節約されるということがはっきり言われている。学校教育だけのお金と社会教育のお金と 1 つ重なるところが出てくる。そういう施設がこういった過疎の町で日本中にあちこちできている。学校教育だけにお金を費やしていくだけの余力もなくなってくる。社会教育だけにお金を費やす余力もなくなってくる。併設することによって、子どもたちの教育環境もよくなるし、町の財政的にもまわりやすくなる。一般的にはそういった考え方なので、議員さんや行政の発言を聞いていても、学校教育の充実とか学校図書館を充実すればいいじゃないかという意見もありますよね。当然併設したら、普通の学校の図書館よりも数段いいものになる。学校図書館を充実させたことになる。そういう考え方からいくと、四万十町も学校教育には力を入れたいと言っていると思うので、学校の横に文化施設、今回は図書館。図書館・体育館・プールが一緒になったようなところが日本中で出来ているので、そういうことを考えると、十川の小中学校をはっきり決まってはなと思いますけど、全面建て替えというようになれば、敷地から計画を立て直して、連絡通路で併設した形に作るっていうのは、僕は非常にいいんじゃないかと、他のところのモデルにもなると思います。施設として十和の人にとっても四万十町の人にとっても誇れる施設になるんじゃないかなと思います。そういうゾーンの件、社会教育と学校教育のドッキングで考えたところから、十川小中学校を建て替えてその時に一緒に図書館も併設してつくるのがいいのではないかと思います。

（田頭委員長）ありがとうございます。具体的な別の事例を出しながら、今松下委員が言われたようなプランで進むならば、それもそれで、局長も言われたような学校の改修か改築にも絡まってきますので、今が絶好のタイミングであるとは言えるだろうと思います。それは教育委員会がどう考えるかではなくて、この委員会でこういうプランがいいのではないかという今のような意見で教育委員会に対して提案をする。そして、教育委員会に汲めるところは汲んでもらう。そういう流れを作れたらなという風に思いますので、より具体的な今のような意見をぜひ。今の意見に対して何かありますか？

（酒井副委員長）まんのう町の事例で思い出すのが、以前萩原さんが担当されていた時に、その施設のお話があって、一度詳しくは知りたいと思っていたところ、松下委員に詳しく教えていただいてわくわくしている。一般の方はその図書館は入れるんですか？

（松下委員）もちろん。町立の文化カルチャーセンターみたいなもの。ちゃんと入り口があってがんがん入っています。夜遅く 9 時までやっています。（訂正：HP によると、スポーツセンターまんのうは午後 10 時まで、図書館は午後 6 時まで）学校は閉鎖的なところがあるから、子どもと一般の人が一緒になったら、なんかあるのではないかと、観光客と一緒にしたらいけないんじゃないかという考え方はすごくあります。「なんかって何なんですか？」って僕はいつも聞くんです。具体的には答えられない。なんかっていうのを具体的に出してそれに対して対策を事前に打っていったら、何も起こらない。何もせんといくからなんかあったらっていう不安にさいなまれる。やっぱりその辺は、やり方次第。今まで自分の経験上は、そんなに何も起こりません。よっぽどすごい不審者が現れない限りは。

(田頭委員長) 社会環境自体がすでに今まででは考えられない状況に進んでいくので、今まではこうだったという考えは、あまり捉われないほうがいい。人口減少が進む中で、今からどうするのか、どういう形が一番なのか。松下委員が言われたような施設だと、考え方としてはすごくいいんじゃないかと私も思う。例えば、10 年後 20 年後の人口を考えて規模を縮小したものをつくるという考え方ではだめ。20 年後人口が少ないから規模を縮小したものを作るというのではなくて、今この現状で、今の身の丈にあったクオリティの高いものを作っておいて、それを 10 年後 20 年後、どのように維持していくかを考えておくべき。「20 年後人も少なくなるから蔵書数も減らして小さい図書館を作ろうよ」それでは意味がない。そうではなくて、10 年後 20 年後の人口が減ったときにも、同じクオリティをずっと続けられるようなシステムであったり、方法であったり、そういうものを考えておくことが、人口減少に対する今からの考え方。そういう意味では松下委員が言われたようなものが、前回の町議会でも山本大輔議員が言われましたけど、縮充という話。要は施設を充実させる、ただし集約していくというそういう考えがすごくいいんじゃないかなと私個人も思います。予め十和地域にある図書に関わる学びの場所を縮充させておくということ。十和地域ではすごくクオリティの高い図書館がある。そこは小学生も中学生も未就学児も一般の人もそこに行けば、かなりクオリティの高い図書館活動に触れることができる。学びができる。いいなあという風に意見を聞いていました。

(久保委員) 松下委員の意見を受けて確かにいいなあと思って、教育ゾーンの小中学校、保育園があってそこに図書館ができるといいのかなと僕も今考えて聞いていました。そこに行ったら、子ども、親が通う、そこからおじいちゃん、おばあちゃん、そこから広がって地域の人が通いだす。十川地域に図書館を建てるという方向で動いていくのでいいのかなと漠然とはありますが思います。

(刈谷委員) この地図を見ると周りが山だらけで、拓けているところでとなるとかなり絞られてくると思うが、やっぱり 1 番拓けているし、人の行き来も一番多いところで考えると、教育・保育推進ゾーンに図書館が建つというのはいいと思いますので賛成です。

(平野委員) 学校図書と併設するというメリットももちろんあると思いますし、地図を見ていて、場所的に近隣にスーパーやいろいろなお店もあってそこに行ったついでに行けるようなところにあるというところで、やっぱり観光も兼ねた図書館もたくさんあって、奥まったところにあってもおもしろいという意見もあるかもしれない。でもやはり、できる限り多くの人にとって便利な場所、気軽に寄れる場所にあってほしいなという思いが私にはあります。地理上もすごくいいと思いますし、同僚の人なんかは大正とか窪川に住んでいるんだけど、自分の家の近くの図書館は帰ったら閉まっているから、もし十和にあったら、仕事帰りに寄りたいという人も話を聞いていたら結構たくさんいる。この位置にあれば仕事帰りに寄れるような場所になっているんじゃないかなというのでありがたいなと思います。また、お店が近くにある場所というのは、私自身の経験からも子連れだとありがたい。子どもが喉が渴いた、お腹が空いたとなると、せっかく図書館来たのに、それがなくてまた車を走らせて行かなくてはいけなくなるのはなかなかしんどいこと。このあたりにあってくれると、子連れにありがたいと思います。

(酒井副委員長) 旧小鳩保育所を育つ会とおわで運営していると思うのは、子供たちが学校から帰ってからの、

居場所がないというのが分かった3年間だった。未就学児のお母さんにとっても居場所がないのは深刻な状態。未就学児のお母さんっていうのは今ほど人数も少なくなく、まだ仲間がいた。今、1歳になると保育所に入るのがほとんどで、1歳までのうちに仲間を作るっていうのも数が少ないゆえにできない。前からそうだったが特に、移住してこられた核家族の方が子育てがしにくい。わざわざおかみさん市の人がいるときを狙ってきて、「自分の子供が他の子と接するときがないから、もしかしてそれで人見知りが激しいのでは」と言ってきたりする。以前私達の代でも道の駅に行ったりとか、誰かが喋りかけてくれるかなとかそういったところがあった。先ほど久保委員がおっしゃったように、子どもがいるからおじいちゃん、おばあちゃんや地域の人も来る。そこに観光の関係もあって、色んな人が来ると、色んな人の居場所になると思います。今、じゆうくがやられていますけど、18時30分から始まりますが、中学校が終わる時間帯が16時頃。その間、十川地域の子たちであれば家に帰ることもできるが、奥のほうの子は、じゆうくに通う選択肢も一旦考えないといけなくなる。でもこういう施設があれば過ごして、いろんな学びがあったりなどする。バスがないとか色々な問題があるので、そういう点で考えると、すごくいい環境になるのではないかと思いますので、松下委員の意見にいい印象を受けています。

（栗原委員）先ほど酒井委員が言ったように、旧小鳩保育所を運営していると、なにかスポーツをやるってなったら、十和体育館ではだめなのかとか、本を読むなら振興局でもいいんじゃないかと言われたりするんですが、私たちが運営していて感じるのは、1か所に集まることにより発生する別のもの・構想やイベントにつながりが生まれることを感じている。松下委員が言われた学校周辺は、小中と保育園も集まっているエリアってということで、そもそも人が普段から集まりやすい場所。そういうところに図書館が建設されれば、より集まって交流が生まれて、そこから新たなものが生みだされるという可能性をすごく感じる。私的には学校ゾーンに併設する形が望ましいと思います。

（松下委員）全国的に認められて、次世代の流れで、反対する人ってどう考えているの？と聞きたいくらい。こういうものを作るにはコストがかかる。ランニングコストもある程度みていかなくてはならない。結局それで人口減少が進み、やりたくてもできない自治体がたくさんある。だからそういうコスト面はすごく心配。それを度外視した意見で言わせてもらいますが、もう一つはこういうハコモノを建てるのに一番大きいのは、住民の理解です。いくら高いものでも、住民が後押しして、「さあ、これでやってくれ」となると、行政もやらざるを得ない。反対意見が出だすと、執行部としてはそれを無視できないので、お流れになる可能性が高い。この施設をつくるにあたっていかに住民の理解や賛同を得られるかということが僕が一番気になっています。気になっているのが、十川と昭和で、昭和の人が「なんで十川ばかりやるの」という意見があって普通。自分が昭和にいたらそう思うかもしれない。だから先ほどのまちづくりのゾーンが決まっている大前提でやっていくというところを大きく出して、昭和は観光や医療・福祉と決まっている。十和の分館を大々的にやるのと同時に昭和地域の観光や医療・福祉のほうは、はなにをやろうとしているのか。昭和の小の跡はどうなるのか、というところを全く無視してこれを進めると反対されると思います。私たちがここで言う話ではないが、行政の方ももちろん分かっていることなので、十川だけ先行してではなく、昭和のまちづくりも匂わせながらやっていくのが戦略的には必要かと思います。

（田頭委員長）昭和のほうも観光ゾーンということで、轟のキャンプ場や交流センターもかなりきれいに整備されていて、観光のほうで力をいれている。十和地域でもバランスを持って、ゾーンを考えながら進める。やはり、人口

減少の波に抗えない状況になってきている。この会ではいいものを作ろうというのは多くの委員さんから出ていて、そこは確認しましたが、できるだけいいものを作りつつ、それを維持していく。ランニングコストの件も出たが、いかに維持していくのか、どうしたら維持できるのかということを含めて教育委員会に対して意見を言えるように報告できればと思います。ちなみに、四万十町に合併した 2006 年 3 月は人口 21,215 人です。2024 年 3 月、15,202 人です。人口の推計値が出ていますけど、どんどん下がっていく状況にあります。今のところ国立社会保障・人口問題研究所（社人研）が 2015 年に出した推計値で 2040 年の四万十町の人口は 9,838 人。1 万人をきるということです。もし今から図書館を作った時に 15 年だとかそれぐらいの運用は考えていくべきだと思います。今から図書館を建てて、15 年経ったときに、四万十町全体で 1 万人をきるというような状況です。ここから爆発的に人口が増えることはまずないと思う。四万十町の人口ビジョンが 2040 年時点で 11,545 人いればいいなとなっています。ただ今の段階いくと、9,872 人になるという推計が出ています。社人研が出した 9,838 人よりかは若干微増です。ただし大まかな人数は変わらず 1 万人をきる。今から図書館を作ると 10 年 15 年運用される、その 15 年先には四万十町全体で 1 万人きっているような状態。ちなみに 2050 年は 7,595 人になるという推計値が出されています。窪川地域が 5,392 人、大正地域が 1,062 人、十和地域が 1,141 人という推計値。これより若干増えるかもしれないが、それほど爆発的に変わることはないというふうには考えられています。戻りますが、今この時点で、できるだけ施設を縮充しておいて、クオリティを落とさないように維持していくシステムであったりとか、施設を作っていくべきではないか。ハコモノを作るというよりも、2050 年にここで生活している人に希望を残す・作っておく。そういうことも大事なことはないか。そのためには、ランニングコストの件もあるし、運営方法もあるけれども、できるだけ今考え得るいいものが維持できる形を具体に出して、教育委員会の意見を伺うのも、今この時期だからこそ大事なことがあると思います。推計値ですけど、そういう状況です。ただいいものを作りたいという皆さんの思いはあると思いますので、何かご意見ありましたらどうぞ。

（酒井副委員長）人口ですけど、2020 年の時点の統計では、15 歳未満 9.5%くらいなんですよ？田頭委員長がおっしゃっていた 2050 年ぐらいになると、それがもっと少なくなるのか。今の時点で 60～80 歳のボリュームがすごい大きいわけじゃないですか。仕組みでいえば、50～80 のボリュームを持つ人もしっかり楽しんで使える施設にしていくこと。それと、やはりすごく少ないパーセンテージのほう、今年度は 40 人ぐらいの出生数と言われているのをもう少し増やすことに繋がるよう、新しい図書館でできたらいいと思う。どっちかにフォーカスしてもいいのか、学校に置くからには子どもたちにもフォーカスしてほしいと私は思います。ただ、ものすごいボリュームを持った層にどういったアプローチができるかなというのと、先ほど松下委員もおっしゃっていましたが、昭和地域も気にはなります。昭和地域の方たちにとって、昭和の課題もあると思うので。

（山本卓委員）小学校から昭和だが、自分からしたら廃れるとかは思っていないです。観光面にしても三島のキャンプ場であったり、交流センターなどにお金を入れてもらっているし、この距離なので昭和だ十川だのいう根っこは自分たちの世代は感じてないように思います。上の世代だとちょっとあるかもしれません。

（刈谷委員）推計とかを見ると、人口も減っているし、なかなか厳しい状況ではあると思うが、今の時点で図書館がなくて、町民や子供たちが情報や本、文化的なものへのアクセスがない状態で、全国の図書館のない自治体

はあるかもしれないが、かなり特異な環境だと思う。今の時点でマイナスの環境にいることを考えると、それを日本全国どこに住んでも同じような文化的なサービスが受けられるようにしておくというのは、未来のことを考えるより先に、今の状態を考える上で、必要不可欠だと思う。そこをもし、すぐ減っていくので、縮小しようとか、建てる余裕はないですねって言うってしまうっていうことは町全体で、町民の人たちはそういう文化的なサービスを享受する必要はないですって言われているのと同じだと思います。未来のことも大事なんですが、今の状態でかなり特殊な状況にあるっていうことは、私は移住してきたので、そういう風に思っています。ですので、図書館なり文化的情報なり、未来につながるような発想が沸き上がるような素材が集まるような場所は整備されてしかるべきものだと思います。

（松下委員）人口減少に関してはまた違う所でやらないといけず、ここでどうするんだということではないが、絡んでくるので意見を言わせてもらいたい。この町で人口が減っていくのは当然だと思います。大きな病院がない。子供を産むにも宇和島や宿毛に行かないと産めない。そんなところに、子供を産もうかっていう生産年齢の女性は住みませんよ。自分の子どもや孫に絶対ここに住めと言えますか？「僕ここに行きたい」と言われたら「がんばってこい」と親も言わざるを得ない。そういう環境。学校教育だって教室を半分に割って授業しているような、はっきり言ってよろしくない状態。子どもの学力向上にとっては格差がある。図書館がないとかそんなことも含めて、それで人口減っていくのが当たり前で仕方がないので、このぐらいなんだという話が常に出ますよね。刈谷委員が言われたように人口が減っていくということを受け入れることが大前提。何もしなかったら減っていくのが当たり前。じゃあ何をするの？何もせずに減っていくのか、何かして失敗して減っていくのか、あなたはどちらを取りますか？と言ったら、私は失敗して減っていくほうを取ります。何もせずに減っていくんやったら、もう何もいらないじゃないですか、行政も。こんな会もいらぬ。失敗しなくてもどっち道減っていく。社人研は何を言わんとしているかと言うと、一刻も早く何かやりなさいよと言っていると僕は思う。それを全国の人たちがどれだけ感じているのか、それを聞いて「減っていくんだな」と感じているのか。「これはすぐに何かしないといけない」と感じるかの違い。そしたら人口を増やすためには2つしかない。結論から言うと、Iターンの人かUターンの人を増やすか。自分の子供が都会行って大学行って帰ってきて、結婚してここで子育てをしたいと思えるような教育環境をつくらないと、子どもを育てられない。特に女性は環境のいいところで勉強させたいのは当たり前。そしたらそういう教育環境を整えるのに、こういう施設は必須。ただ大きさとかは考えないといけないけども、そのときにこの機能の中に、要するにI・Uターンの人がかかるような機能を十和の図書館にも少しは入れたらどうか。十和分館を建てることは人口減少にストップをかける1つの手法になっているからこういう機能がいきますよとか、観光客が来ても立ち寄れる機能がいきますよとか、移住者が移住しやすいような機能とかそういうところから規模感が見える。人口減少にストップをかける機能をつくりながら図書館の規模を考えていったりするという流れに持っていけないと、維持できなくなるとかまたそういう話に逆戻りする。人口減少とそれをストップさせる機能をこの分館に何とか持たせて、そういう役割も四万十町で果たしていく。ということで建てるということが大義名分になるんじゃないかと思うので、今回の人口減少の話はそこを考えて、必ずそういう機能を持って建ててもらいたい。

（刈谷委員）夏休みとか3連休もそうだが、「四万十」とか「高知」というブランドネームがあり、夏休みになったら交流センターは県外からの車でいっぱいになるし、今の時期には栗を食べにわざわざ車で2～3時間かけて観光客が来ているわけですね。それを考えると、移住ってなると、住む人を増やすのに町も色々しているかと思うが、

来た人が道の駅だけじゃなくて、交流センターだけじゃなくて、もう一つ観光コースになるような場所があれば、集客をする力が町全体で強くなっていくんじゃないかと思う。今全国で色々な図書館が図書館単体じゃなくて、複合施設になったりとか、ある特色を持った図書館がたくさんできていて、そこが注目されることでその町・県全体が有名になるみたいなことが起きているので、そんなに大きいものが建つとは思いませんけど、小さくてもその町に根付いて、こんなに地元密着でみんながいいねって言ってくれるような図書館。住んでいる人も、観光で立ち寄った人も「この町にこんな図書館があっていいですね」って言ってくれるような図書館に文化施設に十和分館がなったらいいなと思います。

～小休憩～

（酒井副委員長）縮充ということで、今出ている課題が、小学校中学校結構あって、先ほどのじゅうくの話もありますし、じゅうくがここでやらなくても、この施設ができれば、直接そこに行けたらと思います。今の大正図書館も隣にありますし。学童（放課後子供教室）の場所も昭和と統合するにあたって、子どもが増えるし、老朽化でいれる場所がないと、狭さと高齢化も相まってよろしくない環境になっているみたいです。そういった新しい建物で、多目的みたいなのがもしできたら、どういった形でも使えるような。学童のために教室は構えられないにしても、多目的に何でも使える場所があれば使い勝手がいいのかなと思います。あと、部活にしても地域移行の形に、県や国も推進しているところで、その場合も学校内には入れることができないけど、多目的室なら入れるとかそういう自由度ある場所が1つ2つあれば使いやすいかなと思います。設置場所は十川小中学校で考えていますけど。

（田頭委員長）十和小中学校に来年度からなりますけど、十和小中学校が改築されることを前提として施設をつくるというイメージですかね？

（酒井副委員長）そうですね。

（田頭委員長）放課後子ども教室の場所をどうするかというのはまた、生涯学習課が考えるようになるかと思いますが、まず四万十町立図書館の十和分館を十和小中学校の敷地内というか隣り合わせ、長い通路で繋ぐかは別として、そういうものをイメージするということですね。

（平野委員）私も十和小中学校の敷地内につくるという意見に賛成なんですけども、まず私自身もどちらかというと、大井川なので昭和地区に住んでいるんですけど、家から近い場所って言うと昭和小学校が近いんですけど、親の目線からみたら、今後自分の子供が十和小中学校で大きくなっていくことを考えたときに、純粹に学びの場としてそこにあってくれたらいいという部分と、利便性っていう風に考えたときに「そこで待ちよって～」とすることができる。小学校・中学校と一緒にしているのでセキュリティの面でも安心になってくる。それと同時にそこだけ聞いてしまうと、安全性は大丈夫なのかということはあると思いますが、私自身が旧小鳩保育所を利用して、本来だったら知り合わないであろう昭和中学生と顔見知りになっているんですよ。それってすごく目に見えない安心に繋がるというか、実際にかあったときに、防犯にも繋がるんじゃないか。地域の子どもと大人が顔見知りになっておけば、何か

あったときに災害などなんでもそうですし、安心になってくる。そういうことで子どもも大人も地域の繋がりという面でも、色んな他愛もない話をしたりしながら、私も子供から学ぶことも多いです、他の大人の方がそういった小学生に他愛もない会話から伝えていけることも多いんじゃないか。そうことを考えたときに、図書館っていうものの意味合いが、学校と一緒にすることで深まっていく部分も大さきじゃないかのご意見を聞きながら思ったところで、賛成です。

（久保委員）僕も同じく、十和小中学校の敷地に建てるのでいいかと思います。理由は教育ゾーンがあるということと、そこに色んな人が集える場所にもなるんじゃないかなという２点で、十和小中学校の敷地内に建てるのでいいのではないかなと思います。

（刈谷委員）皆さんの意見も踏まえて、反対意見もないんじゃないかなと勝手に思ったんですけど、反対する理由が見当たらない。これから考えたとき前向きな意見やこういうことができるんじゃないかっていうようなアイデアが出てきやすくなるんじゃないかなと思います。子どもたちがそこにいるっていうことによって、地域の人たちも子どもたちがこんな風にできたらいいんじゃないかとか、自分たちもここに住んでいると子どもがいることをすごく温かい目で見守ってくれる人が多い。それこそ顔見知りになって名前が分かったりとか、どこの誰それっていうのがお互いに分かっていることで、そこに本とか図書館っていうものがあることによってより繋がりが深まったり、今まで出会わなかった人たちが出会って繋がって知り合いになっていくというのがより増えていくんじゃないかなと思います。今、スポーツ少年団が十川と昭和と一緒にやっているんで、十川小学校のグラウンドに昭和小の子たちが毎日来てスポーツをしているので、そこでの直接的なやり取りもそうですけど、送り迎えをするときに名前は分からないにしても、顔が分かるようになって、ゆるく繋がっていくことで、そこから新しいものが生まれてくる。スポーツ少年団があることで広がっていくし、図書館っていうものがあることでより複合的に枝分かれしていくと思います。

（田頭委員長）デメリットもありますけど、メリットの話も出ました。結果として、四万十町立図書館十和分館整備検討委員会では、十和分館の設置場所については、教育・保育推進ゾーンにある十和小中学校の校舎と合築するか隣接し、連絡通路で結ぶかはまた別として、敷地内に合築もしくは隣接する形で設置を希望したいという意見でよろしいか。全員一致ということでよろしいでしょうか。ではこういう形で１つ結論を出したいと思います。合築するか、隣接するかというのは今後の教育委員会の動きにもなってくるかと思いますが、希望があればこのあと、こういう形がいいんじゃないか、まんのう町のような形がいいんじゃないか、合築したほうがいいんじゃないかとか、そういうのがあれば色々出してもらえればと思います。

（富田十和地域振興局）色々なご意見をいただいたので、自分からも報告させていただきます。途中刈谷委員からも「今あってしかるべき施設」という意見が出ましたし、まさにその通りだと思います。だからこそ今この議論がされているんだと思います。先の議会でも「文化的施設が中止になっても十和分館は関係なく進むんですね？」と確か下元議員から質問して、「その通り」という答弁もされていますので、引っ張られることなくこの議論は建設に向けて進めていけるものだ自分たち自身も思っています。冒頭に市街地基本構想にあるから、載っているからと松下委員からお話もありましたけど、自分もそうだとは思っています。ただこれを作るときの経過があって、窪川地域のほうで補助事業を使いたくて、基本構想なり、その下の策定が急がれるという経過があって至急作った経過があり

ます。その時の構想で十和地域はこんな構想です、大正地域はこんな構想ですと、慌てて作ったこともあり、この構想がどれだけ地域の人に認知されているかというやや不安なところがあるのが本音です。それと合わせて、そのあとの意見で十川と昭和のそういう意見ができるんじゃないかと、山本委員のほうは「自分たちはそんな意識はないよ」という話をされていましたが、きっと上の世代はあるなというのは本音ではちょっと思っています。それも自分も気になっています。もう一つ言うと、きっと今ある校舎を活用すべきだという意見もきっとでてくると思います。ただそこで1つアドバイスとしていただいた、分館の話を進めていく一方で、昭和地域のまちづくりをどうするか議論もすごく大事なるよということでしたが、自分もすごくそう思います。今、昭和ふるさと交流センターの改修もかなりの金額をかけてやっていますし、力を入れてやっています。こないだの議会で村井議員から質問いただいて自分も答えたんですけど、村井議員の質問の趣旨というのは旧校舎の活用という話だったんですけど、自分からそれに対して答えたのは、「活用するだけが全てではないし、地域にとって観光とか福祉とか色んなものがあるので、そこも含めた昭和地域の絵・青写真をどういう風に描いていくのかということで議論を進めたい。」ということで話をしました。合わせて、その場では答弁しなかったんですけども、交流センターの議論だけではなくて、昭和中の活用の議論も委託事業にして一緒に検討しようという動きもしています。活用というのは、先ほども言ったように一度壊すことも含めて。そんな議論も始めようとしていますので、そちらの動きと並行して、そちらは自分たち地域振興課側になるんですが、「昭和も決して捨ててない、そっちの議論しているんだよ」ということを示していきたいと思います。具体的な意見として、併設におけるメリットなんかも出ていました。この辺もまさに自分たちもそう思っていましたし、期待通りの意見が出てきたんですけど、きっとそれによって、イニシャルコストだけでなく、ランニングコストも結果的に安くなると思います。そういったものもこれから、旧校舎を活用したら本当に安くなるのか、そうじゃないだろうということなんかも一定示しながら、計画を作っていく必要があるんじゃないかなと思います。また、人口減少に歯止めをかけるということで一方で、多目的室の話が出てきていて、この辺もすごく大事な部分じゃないかと思っています。例えば、移住の手前には観光があり、多目的室を町民だけでなく、外から来た人たちも利用できるということなんかもこれからの検討になるかと思いますが1つのアイデアとしてあるんじゃないかと思いながら聞いていたところでした。

（田頭委員長）ゾーンの計画自体がにわかにつくられたもので、ちょっと怪しいぞというのもありましたけど、あるものはあるで、それで昭和は観光ゾーンで十川は教育・保育推進ゾーンでということをやより強化していくことで、十和としてそれぞれ特徴を活かした地域づくりができるんじゃないかなと。十和が力強くなれば四万十町全体が強くなると思います。昭和で残念がる声も当然出ると思いますが、それぞれ活かしていく時代というか社会状況じゃないかなと思います。それぞれにポイントとなる拠点を作って、昭和は観光とか、十川は教育という形ですね。それで、大前提となるのが十和小中学校の改修ではなく、改築・新築になると思いますが、そうではないと使い勝手のいい質の高い施設というのは作れないと思います。当然、十和小中学校を新築、建て替えるというような意見を補足としてつけて教育委員会に提案すればどうかなと思いますが、いかがでしょうか？

（平野委員）私も改修ではなく、建て直すことが1番いいなと思います。私自身の経験で通っていた小学校は四万十町と逆で生徒数が増えて、教室が足りなくなったゆえに図書室も一時的に教室にしないといけないという事態になった。うちの場合は一時的な問題だったので、プレハブを外に建ててそこに本を全部移動して、校舎から上履きのまま行ける道を作ってくれた。そこにずいぶんの間、図書室があって、2年ぐらいの間そこが図書室だったが、

そんな感じに今の建物のまま改修してできるのであればそれもアリなのかなと思います。いずれにしても希望としては、例えば改築して、小学校とまた別に図書室ができるよりも、上履きのままいける造りにはどちらにしろしてもらいたいなと思います。自分の経験上、あれが靴に履き替えて図書室にいかねばいけなかったら不便だったと思います。上履きで行けていたから利用しやすかったというのはある。そこが万が一でも上履きで行けなくなると残念かなと思います。

（田頭委員長）それは当然履き替えることなく、雨天時にも濡れることなくいけるというのは当然だと思います。ただ十川小中学校はともに耐震工事はしているけれども、町内では一番古い校舎です。なので、教育委員会としても、建て替えるという案もないわけではない。まだ分からないけれども。検討委員会としては、上履きのまま行けるとか、雨に濡れないとか、連絡通路でつながんじやないのとか、合築にするんじやないのとか、当然それなら新築じゃないのとかいうようなことを意見としてつけばいいんじゃないかと思います。

（松下委員）校長先生がおられるから、学校ってやっぱり、何年か経ったらトイレのここを直すとか順番に修理が回ってくるじゃないですか。耐震以外に、水道が壊れてどうなんだとかそういうことを考えると、これからどんどんお金がかかってくるから大変じゃないかなと思うんですけどね。

（山本千代委員）今の十川小学校は昭和小と比べても、教室の広さや天井高が小さめで、トイレの数も少なかったり、例えば昭和小学校の子供たちがあちらの環境に移って、十川小の子供たちと一緒に新しい学校生活を始めるにはなかなか厳しい環境であると、自分も十川小の校長も見ています。そういう状況に今もある中で、これから十和分館のことを、未来のことを思い描いてこれから先の子ども、地域の人達、プラスのイメージで考えている状態で、やっぱり新築という方向で考えていくことがベストではないかなと思います。よりよい質の高いものをよりよい環境の中で、子どもたちに与えたいし、それはましては地域の方も享受できるものになるし、やはり新築がいいなと学校の立場では思います。

（酒井委員）専門家じゃないので分からないが、改修は今の建物の骨組みを残すってことですか？でしたら、局長もよくおっしゃっていますけど、時代にあわせて建物自体をサイズダウンしていく、中身は充実させていくことが大事ですが。正直改修したところだというのが、中学校なんか特にそうで、放課後子ども教室の場所もそうだし、新築がいいと思います。

（松下委員）トイレは男女だけですか？多目的トイレってないんですか？

（酒井副委員長）ないですね。

（松下委員）そこには大きな問題があると思います。これから改修するにしろなんにしろ、人権上の問題でも男子トイレでも女子トイレでも入れない子どもたちが出てきている。福祉の面でも、全部バリアフリー化されていませんよね？段差ありますよね？新しく改修するにあたって、ただ単にきれいにすればいいのではなくて、福祉の面とか人

権上の問題とか全部引っかかってくると思うので、結構な額かかってくると思うんですよね。限られたスペースでやろうとすると。そんなことも含めて新しい学校づくり、これ学校教育の話になりますけど、きちっと新しく建ててやったほうがいいのかと思います。

（田頭委員長）では、新築を前提とすると、それも加えて。付帯意見というよりも、一帯意見。新築があつての十和分館が隣接か合築かになる。

（松下委員）より機能が発揮されると思います。

（田頭委員長）デザインしやすいですね。一步進んで合築か隣接か。まんのう中のように連絡通路で結ぶか、もしくは合築するのか。それについて何か意見があれば。

（刈谷委員）まんのう中学校は、学校図書館と町立図書館が合築しているということですか？

（松下委員）学校があつて、その横に図書館と複合的な施設がどんと並んでいます。学校の中の図書室がなく、図書室の機能も若干あるけども、大きな図書館を子どもたちは使っています。

（刈谷委員）授業で調べものするときは？

（松下委員）移動します。廊下の延長上にずっと行ったらあるので。上履きのまま行って、帰ってくる。

（田頭委員長）それなら近いですね。例えば十川小学校の1年生が3階に上がるよりもはるかに近い。

（平野委員）その連絡通路に一般の人は通れないようになっているのか？

（松下委員）それは入り口に守衛さんのような人がいて、仕切りがある。そこに入る場合は名前を書かないといけない。そこら辺はきちっと人を配置しています。その辺りは全国で事例があるから、別にここで知らないものが言うよりも、やっているののでできると思いますよ。

（田頭委員長）20年ぐらい前にも、東京都の日比谷中だったかな・・・？社会教育施設のプールと体育館を一般と共有してまして、そこは授業がないときは壁が閉まってプール側からは校舎には入れないというシステム。そこら辺は色々な事例があるので、やり方によっては問題ない。

（栗原委員）圧倒的に併設、連絡通路が望ましい。セキュリティの面はもちろんですけど、本に興味を持って見るのは、目に入ることがすごく大事だと思います。合築で1階2階は学校ゾーンで、3階は図書館にしますとなったときに、圧倒的に行ってその場で見られる本ってなかなかないと思うので、自然に目に入ってくる環境に図書館は

置いてほしいので、併設が望ましいと思います。

（田頭委員長）いずれにせよ3階が図書館にということにはならないだろうと思いますけど。一般の人も使うわけなので。以前は学校施設の3階や2階なんかに図書館をつくっていましたが、今町内で大正中学校なんかは1階にあって、図書館は外からも入れる形になっていて、一般開放も考えてつくられています。

（酒井副委員長）合築であったとて、1階部分で、どの学校だったか忘れたんですけど、図書館が学校の真ん中、1番中心で通らないといけなくらいの位置に置いている学校があって、先ほど栗原委員も言っていたように、活用する・しないはその子次第ですけど、目に入るか入らないかの環境の設定は大事だと思います。それが1階部分というのも大事なところかなと思います。それができるのであれば、合築でも隣接でも今のところ私はどちらでも、どちらがいいとかではありません。

（富田十和地域振興局）個人的には僕は連絡通路で別にあるほうがいいかなと思います。一般の人が別棟にあるほうが利用しやすいと思います。学校の中だと入りにくいと思います。

（松下委員）僕もそう思います。通路でつなぐほうがいいと思います。

（刈谷委員）併設か合築かどちらかは分かりませんが、今回十和の場合は中学校と小学校の学校図書館機能にプラスして公立の町民向けの機能が必要になってくると思います。その結果一緒になることで、トータルで「コスト的に少なくしよう」とすることなく、それぞれの図書館機能がちゃんと充実・保障された形がすごく大事だと思います。小学校と中学校って教育課程が全然違うので、必要となる資料も全く違ってくると思います。その辺は学校の図書館としての役割が十分に果たされるように考えてほしい。町立図書館の分館としての機能も役割として、学校や子供たち以外の町民の人たちも対象にしたサービスが十分できるように考えてもらいたいなと思います。

（田頭委員長）イメージとしては学校図書館と町立図書館があるということではなく1つに「共有」ですよね。もちろん蔵書・選書については、それぞれ低学年用の選書とかする必要はあるかとは思いますが、本物の図書館を目指せば子どもにとってもいい書物と出会えるということにはなってくると思います。「共有」というイメージが一番いいのではないかと思います。推薦図書というのがありますけど、何人かが決めているだけで、何かによって選ばれた本であるとかということではないんですね。むしろその人の「意図しない出会い」というのが何人かの委員から出ましたが、本のクオリティの高いものがあっても、それを取る子どもがいたりとか、そういうことも起こり得るんじゃないかなと。そういうこともすごく大事なんじゃないかと。意図しない出会い、本との出会いですね。あるいは普段学校の図書館では手にしないような図書に興味を持つ子どもができるとか。そういうものも共有した図書館であれば、起こり得るんじゃないかなと想像します。

（酒井副委員長）隣接か隣接じゃないかの話と外れますけど、結局はしっかりと司書がいるようにしていただかないと持ち腐れになると思います。今、学校図書館ですごく問題になっているところは、各学校で学校図書室の

レベルが違いすぎて、廃れてどうにもならない図書室で過ごした経験しかない子どもが、外の図書館とかをイメージできずに、図書館に対する負の再生産みたいなことが起こっているという話を聞いたことがあります。それでいくと、学校図書館と公共図書館のその2つを一緒にするにしろ、別々にするにしろ、子どもたちに質の高い図書館の経験をさせるすごくいいモデルになれると思います。そのためには司書をしっかり、人にお金をかけていかなければいけないかなと思います。

（田頭委員長）これは社会教育施設としての図書館ならば、司書をしっかり配置して図書館運営をしていくだろうと思います。今、学校図書館というのは非常に厳しいと思うので、教職員数も減る中で、学級数によって教員数の定数配置が決まるので、どんどんどんどん人が減っていると。一般的に加配教員をつければという意見も出ますが、非常に困難である。関東圏なんかと比べると、高知県ほど加配教員をつけている県はいないという状況の中で、ますます教職員数・学級数が減る中で、図書館活動を先生1人が担うというのは非常に難しい状況だだと思います。であるならばやはり、社会教育施設としての図書館と共有し、司書が児童・生徒のことも考えて運営していくようにすれば、ハイクオリティなものが維持できるのではないかなと考えます。そこはぜひ教育委員会にも考えていただきたいなと思います。他、意見ありませんか？では本日の結論を先ほど確認しましたが、「十和小中学校の新築を前提として、十和小中学校の図書館と十和分館を共有したものをつくる」ということにまとめたいと思います。合築か併設化で行くと併設のほうがいいんじゃないかという意見がわりと多かったというような意見でそれも参考にぜひ教育委員会に諮っていただいて協議・検討していただけたらなと思います。それでは今日の会はこれで終わりたいと思いますが何か最後ありますか？

（事務局）今後の流れの確認をさせてください。今回、場所と新築、併設という意見が出たかと思うんですが、その意見をまとめて中間意見書として作成して、提出するといった流れになるかと思います。提出先は教育長か町長どちらになるかっていうのはまた委員長と相談させていただきたいです。内容に関しては、皆さんにも確認させていただきたいのですが、細かな内容は事務局と委員長・副委員長に一任させていただきたいと思います。また、意見書を出した後で、その回答を受けて教育委員会だったり、町長が財政やより具体的な財政課題と照らし合わせた上で、町としての考え方を示されるかと思います。その回答を受けて、また、分館整備検討委員会のほうで検討をより深めていただいたり、回答次第では再考してもらう必要性があったりとなってくるかと思います。また、回答を受けてから、検討委員会も動くという事になりますので、次の開催日程については改めて日程調整させていただけたらと思います。

（田頭委員長）まずは、ここで出た大筋の意見を教育委員会に意見として出し、まず教育委員会で協議してもらおう。その教育委員会の協議の内容次第によってその後のこの会の開会が決まる。

（富田十和地域振興局）結局この協議はまだ途中ですと。今回皆さんに求めている役割は改めてお配りさせていただいた設置要綱の所掌事務(1) 分館の在り方に関する事。(2) 分館の整備に関する事。まだ具合的な整備の中身にまでの議論には至っていませんけど、教育委員会との学校施設の絡みがあるので、1回はこの会からの意見を求めたいということもあったので、今の段階の意見を中間の意見という形で一度出し、それを向こう

で読んでいただいて、学校整備のあり方とか、学校の意見を踏まえて。もしかしたら自分たちが今回出した意見にそぐわない意見も若干出てくるかもしれないですし、そのままいくかもしれないです。そこでまたキャッチボールが生まれていくという流れですね。

（田頭委員長）今検討しているのは文化的施設ではないので、あくまで町立図書館の十和分館なので、教育委員会がまず決定するということになってくるかと思います。それについて、希望を今日出していただいたので、それを伝える。

（富田十和地域振興局）意見としては大体整理はできているので、意見書の中身は委員長と事務局に一任させてもらって皆さんには事後報告という形で。

（田頭委員長）教育委員会の協議を踏まえてまた報告という形で。

（富田十和地域振興局）まだ中間の意見書ですし、構わないですか？ 皆さんにはこれで報告したよということでもいいですか？

（酒井副委員長）今西課長大体どのくらい協議しますか？ 意見書が来たら。

（今西生涯学習課長）意見書をもらった上で、スケジュール感がざっくりしか決まっていないんですけど、これから小中学校の基本構想をつくっていく段階、その中の1つの案としてこの図書館との合築なのかというのはありなのかどうかというのをまず内部で話し合い、具体的な構想を皆さんにお示ししていくという形になるかと思います。スケジュール感は学校教育課の話になってくるので、なんとなくのイメージは持っているかと思いますが、少なくともできるだけ早い時期にはやらないと学校の工事なんかは早いに越したことはないのでは。

（酒井副委員長）じゃあ次の委員会が開かれるのは、来年度になるかもしれないということですか？

（富田十和地域振興局）それが先ほど自分が会の途中で言った、今日教育委員会にちらっと聞くと、2月くらいには基本構想の大まかな方向性は出していきたいと言っていたので、それを受けてですね。

（田頭委員長）この会はしばらく間が空くということで。来年にはなるということで。期待を込めて待ちましょう。

（酒井副委員長）その間、自分たちは勉強したかったり、そこまで時間が空くと、情報を集めるときにブレもでそうだから、どこを注目して見ていたらいいですか？

（今西生涯学習課長）基本構想の中で、図書館と具体的に作りますよというものが出るか出ないかによって、全然研究する内容が変わってくるのでそれまではどちらにも動けないんじゃないかなと思います。

（富田十和地域振興局）もし、うちうちに方向性として今回出したアイデアでいこうよとなっていきそうだったら、それが 12 月くらいの段階でなんとなく見えてきたら、例えば来年視察に行ってみたいとか、そんな思いは皆さんありますか？

（田頭委員長）行けたら行ったらいいんじゃないでしょうかね？

（松下委員）それはやはり実現しての視察なので、視察のために視察に終わるのは無駄金を使うだけですので、ある程度そういう方向が決まらないと。

（富田十和地域振興局）これから 4 月以降に具体的なこういうような部屋が欲しいとかいう議論になるときに、1 回見ておくと議論がしやすいというのはあるかもしれないですよ。

（田頭委員長）それでは、今日はこれで終わりたいと思います。本日もお疲れ様でした。